

教育改革とコロナ禍におけるトライグループのICT教育戦略 —「Try IT」「AIタブレットサービス」「オンライン集団LIVE 夏期講習」の事例から—



株式会社トライグループ 医学部・難関大担当執行役員 **宝田 亮祐** (たからだ りょうすけ)

1. はじめに

令和を生きる私たちを取り巻く環境の変化は著しい。それに伴い、求められる教育の在り方も大きく変わりつつある。教育事業者として、変化に適応した教育の提供は急務である。

本稿では、教育改革・コロナ禍に伴う教育の変化を振り返り、「人×デジタル」を掲げるトライグループのICT教育戦略について述べる。また、その戦略をもとに実践してきた3つの事例を取り上げる。

2. 教育業界・塾業界のこれまでとこれから

これまでの教育業界・塾業界の主流は、「集団指導」・「オフライン（対面）」であった。集団指導では、カリキュラムに則った画一的な授業が展開されており、多くの生徒に知識を身につけさせる点では大きな効果を発揮したが、思考力の育成や生徒個々の苦手解消には課題がみられた。

また、形式としては、学校・塾・予備校などに生徒を集め、講師が直接講義を行うオフライン（対面）指導が中心となっていた。それを受け、教材や学習環境も、生徒と教師が直接相対することを前提として整備されてきた。

こういった形式で展開されてきた日本の教育は、2020年教育改革と新型コロナウイルスの感染拡大により、大きな変化を求められることになった。

2020年度より、小学生・中学生・高校生の学習内容から、大学入試制度までを含んだ大幅な教育改革が開始されている。この改革の重要なポイントは、子どもに求められる力が「学んだことをきちんと理解しているか」という「知識の暗記」「情報処理能力」から、「与えられた知識をどのように活用するか」という「判断力」「論理的思考力」「表現力」へシフトしたことである。これまで集団指導で行われてきたカリキュラムに則った画一的な授業だけでは、対応が難しいといえるだろう。

また、2020年から新型コロナウイルスが国内外で急速に感染拡大している。3密（密閉・密集・密接）による感染リスクを避けるため、1か所に集まるオフライン（対面）教育の継続が難しくなった。その結果、全国各地でオンライン教育の導入・展開が急速に進められた。

教育改革による学力の再定義、また、コロナ禍における学習環境の変化の2点によって、教育の在り方そのものが問われているといえるだろう。まず必要となるのは、画一的な教育から、個別最適化された教育への転換である。暗記型から知識活用型の学習に対応できる、一人ひとりに最適化した個別指導の需要が高まっている。

次に、オンライン教育の推進である。デバイスの導入にとどまらず、コンテンツ整備・教師育成など、取り組むべき課題を挙げれば枚挙にいとまがない。再定義された教育の在り方によって、教育事業者として提供すべきサービスも変わっていくといえるだろう。



■図1. これまでの教育とこれからの教育

3. トライグループのICT教育戦略

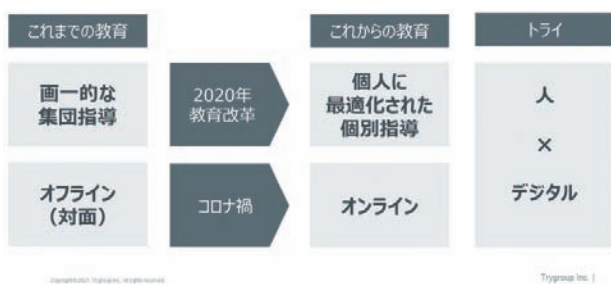
変革期の時代にある教育業界に、トライグループはどうか立ち向かうのか。その答えは、「人×デジタル」の力で新たな教育の姿を築くことである。

トライグループでは創業当初から、マンツーマン指導にこだわり、一人ひとりの生徒に寄り添った教育を提供してきた。生徒自身の言葉で学習したことをアウトプットさせる「ダイアログ学習法」をはじめとする「トライ式学習法」により、論理的思考力や表現力の育成に取り組んでいる。当社の企業理念でもある「人は、人が教える。人は、人が育てる」ことの大切さを最大限活かした教育の在り方を追求している。

一方で、コロナ禍におけるオンライン需要の高まりには、既存のマンツーマン指導に加え、デジタル教材やICT教育の導入が必須である。また、デジタル教材を使って授業前に予習するという反転学習への注目も高まり、授業の位置

付けも大きく変わりつつある。今後ますます、デバイスやネットワークを駆使したサービスが求められる。

そこで、トライグループでは、理想の教育像として「人×デジタル（オフラインとオンラインの融合）」を掲げ、今後のICT教育戦略を加速させてきた。これまで培ってきた個別最適で質の高いマンツーマン教育を軸に、映像授業・AI・オンラインサービスの導入・拡充といったデジタルの強化によって、教育の可能性を最大限追求していく。



■ 図2. 教育の変化と、トライグループの戦略

4. トライグループでの取り組み

トライグループでは、「人×デジタル」の実現に向け、段階的にオンラインを活用したサービスを展開してきた。本章では、「映像授業サービスTry IT（トライイット）」・「AIタブレットサービス」・「オンライン集団LIVE夏期講習」を取り上げる。

〈映像授業「Try IT（トライイット）」〉

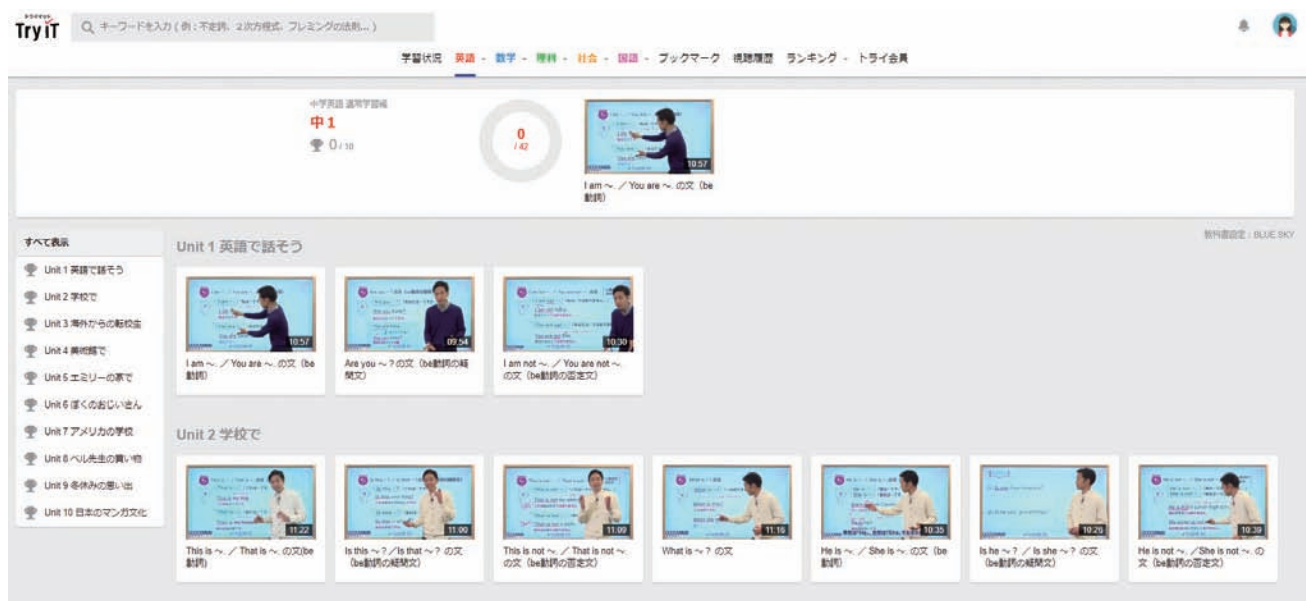
2015年7月にリリースした「Try IT（トライイット）」は、中学・高校の主要科目を網羅した、一流のプロ家庭教師によるハイクオリティな映像授業をインターネット上で提供するサービスである。2021年9月時点で、アプリ・ブラウザ・YouTubeなど、複数の媒体で展開している。Try ITは、映像授業の視聴を「永久無料」で提供している。これにより、「いつでも・どこでも・だれでも」学びの機会の提供を受けられるサービスが実現した。トライの厳選されたプロ家庭教師の指導を各単元10～15分と短い時間で集中して学習することができ、中学・高校あわせて約6,000本の映像を無料配信している。

さらに、定期テストや大学・高校受験対策、苦手科目の克服など、近年では、地方自治体と連携した学習支援事業や、中学校や高校の教育現場での活用など、利用シーンはさらに広がっている。

Try ITのユーザーは、専用アプリ・ブラウザ版の利用者と、YouTubeでの視聴者に大きく二分される。専用アプリ・ブラウザ版で会員登録を行うと、専用の映像授業とテキストを利用して学習することができる。

また、YouTube上で公開されている映像授業は、公式YouTubeチャンネル「映像授業 Try IT（トライイット）」より会員登録なしで視聴することができる。2021年9月時点で、100万人以上が利用し、総再生回数は2.5億回を数える。

今後も、学習指導要領の改訂やデジタル視聴環境の変



■ 図3. 映像授業「Try IT（トライイット）」ブラウザ版 学習イメージ



化にも対応するべく、社内にスタジオを構え映像授業をアップデートし続けていく。

〈トライ式AIタブレットサービス〉

映像授業「Try IT」を発展させたサービスとして、2020年4月より全国展開を行っているのが、「トライ式AIタブレットサービス」である。

AIタブレットサービスは、映像授業「Try IT」の延長として、教科ごとの苦手な単元が分かる理解度診断から、学習方法の提示、定着度判定まで一気通貫した学習フローの提供を実現した。トライでは、映像授業とAIを組み合わせた専用のアプリを開発し、学習履歴をデジタル管理できる体制を整えた。そのアプリをタブレットに搭載し、アプリとデバイスを同時に提供することで、デジタル学習のパッケージ化を行った。専用のアプリは、中学版・高校版定期テスト対策・高校版受験対策の3種類があり、生徒の学年や学習目的によって使い分ける設計である。



■図4. AIタブレットサービス 学習イメージ

トライ式AIタブレットサービスには2つのAIを搭載している。1つは「トライ式AI学習診断（以下、診断AI）」、もう1つは「入試問題的中AI（以下、的中AI）」である。いずれのAIも、ギリア株式会社（ソニーコンピュータサイエンス研究所出資）と共同開発を行っている。最新の技術を利用して、個別最適で効率のよい学習ができるようになった。

「診断AI」は、限られた問題に解答することで、その科目・単元の理解度を3段階（★～★★★）で推定することができる学習診断に特化したAIである。

診断AIが解決する課題は、「生徒の理解度特定の効率化と精度向上」である。一般的な学習塾では、生徒の入

会ごとに、ペーパーテストを利用して単元ごとに理解度を判定していた。その際、生徒の理解度を特定する場合には、1科目あたり2時間以上、200問以上の解答が必要になっていた。そのため、生徒の時間を確保し、モチベートすることが難しく、実際には正確な理解度を把握できないという課題があった。診断AIの導入により、時間や問題数の大幅削減を実現した。ペーパーテストに要していた労力の約10分の1の時間で、理解度を推定できるようになった。

診断AIは、膨大な学習データと最先端のAI技術を駆使した“高速”かつ“高精度”の学習診断として開発された。従来の10分の1の時間で、すべての問題を解いた結果と80%～90%合致する診断結果を提示することが可能になった。2019年には、「日経 xTECH EXPO AWARD 2019」の「教育AI賞」を受賞した。

トライグループのAIタブレットサービスでは、診断AIを利用して、理解度ごとに適した学習方法を提示する。例えば、理解度★の単元は、基本的な事項の習得が不十分であるため、映像授業「Try IT」からの学習を提示する。次に、理解度★★の単元は、習得は済んでいるが知識の定着が不十分であるため、基本事項のまとまった「要点まとめ」からの学習を提示する。さらに、理解度★★★は、知識の定着まで完了しているため、練習問題を提示し、演習を進める。

「的中AI」は、過去問傾向と学習者の得意・不得意に応じて、志望校対策に最適な50題を選定する大学入試に特化したAIである。生徒が志望大学・学部と現時点の学力状況をタブレット内のアプリに入力すると、その生徒にとって最適な合格に向けて解くべき50題の問題をAIが自動生成してくれる。2020年8月に、対象32大学からスタートし、2021年9月現在、129大学・824学部に対応している。2020年度に実施された大学入試においては、対象32大学*すべてにおいて、的中AIが予想した問題に類似した問題が出題された。

的中AIの開発に際しては、ギリア株式会社に加えて、株式会社旺文社とタッグを組み、アプリ内で利用する問題データの提供を受けている。掲載されている問題集は、60冊以上にのぼる。

トライでは、的中AIによる対策問題とコーチングを組み合わせ、第一志望校合格までサポートするコースを設置。

* 問題が公表されている大学で、的中している大問があることを確認

的中AIの活用により、逆転合格を実現した生徒もおり、国立大学では、名古屋大学(理学部)、神戸大学(医学部保健学科)、私立大学では、早稲田大学(国際教養学部・人間科学部)、慶應義塾大学(総合政策学部)などの合格実績を生んだ。

〈オンライン集団ライブ夏期講習〉

Try ITやAIでのICT教育(デジタル)の展開に加えて、トライグループでは、教育の急速な変化に対応すべく、2020年からオンラインサービスを展開・拡大している。

本節では、2021年度に全社をあげて取り組んだ「オンラインLIVE夏期講習」を紹介したい。「オンラインLIVE夏期講習」では、小4~高3までの各教科の主要単元を網羅した授業全350コマを、すべて無料でリアルタイム配信を行い、アーカイブ機能も付け提供した。

本サービスは、コロナ禍におけるオンライン需要の高まりに加え、経済的困窮世帯の増加、緊急事態宣言等での外出自粛要請といった社会情勢を受けて開発された。今夏は、約3万6,000名が無料で受講した。

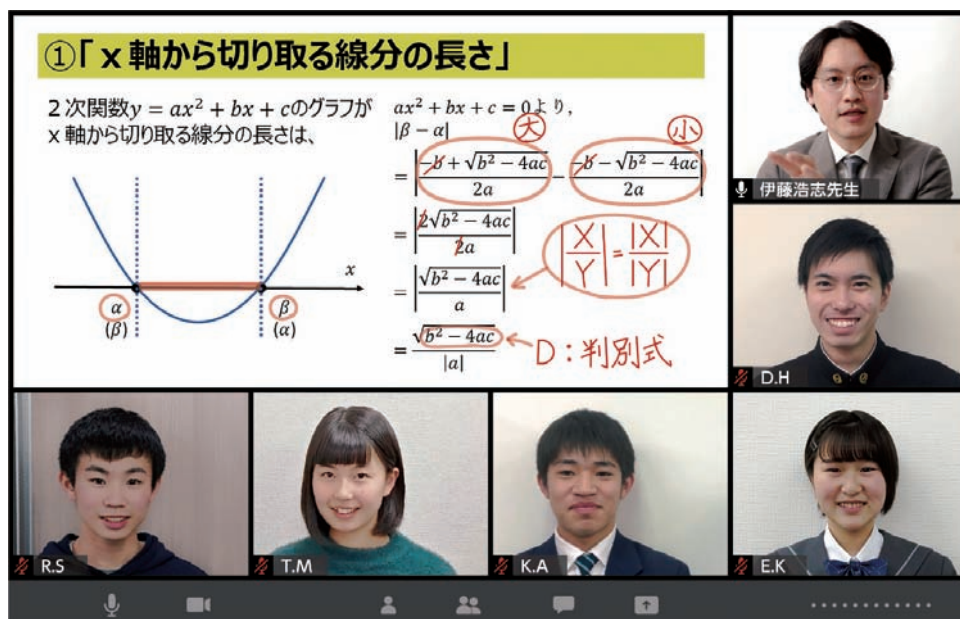
また、トライグループでは、オンラインでマンツーマン指導が受けられる「オンライン家庭教師」や、オンラインのアクセス性を生かした「集団ライブ授業」といった形で、指導の場をオンラインに拡大し、提供するサービスの幅を広げている。また、変容する生活様式・学習スタイルに対応し

たサービスとして、「オンラインコーチング」・「オンライン自習スペース」をリリースした。「オンラインコーチング」は、学習する内容や家庭学習の時間が増え、進捗管理やモチベーションを維持することが難しいという声を受けて生まれた。生徒はコーチと一緒にマンツーマン指導を受けない日の学習計画を組み、進捗報告や相談をしながら学習の習慣化を目指す。また「オンライン自習スペース」は、中高生のSNSで勉強仲間を集めるトレンドに着目し、仲間と一緒に勉強する場をオンラインで無料提供している。さらに、受験制度の変更や夏休みの過ごし方など様々なテーマで「オンラインセミナー」を開催し、保護者・生徒への情報提供も意欲的に行っている。

5. 今後の展望

2021年教育改革やコロナ禍によって、教育の在り方自体が問い直され、生徒・講師・教育業界全体が抜本的な変化を求められている。

トライグループは、理想の教育像として「人×デジタル(オフラインとオンラインの融合)」を追求していく。「人は、人が教える。人は、人が育てる。」という企業理念に基づき、一人ひとりのニーズに寄り添ったマンツーマン教育を大切にしながら、最先端のAIテクノロジーを活用することで、「人」と「デジタル」を融合した、これまでにない新たな教育サービスを提供していく。



■ 図5. 「オンラインLIVE夏期講習」学習イメージ